

4月から白樺にきて、失敗したときや悲しいとき、先生たちに叱られたときに、暴れたり、足をどンドンしたり、お外まで聞こえる声で泣いたり、ドアや物に蹴ったり叩いたりしちゃいます。それはダメなことだと思います。泣いたり足をどンドンしないように頑張ります。もし失敗しちゃったら、すぐごめんなさいってあやまれるようになります。私はお姉ちゃん達や先生達と仲良くお話がしたいし、いっぱいよよししてほしいし、おでかけもたくさんしたいです。だから頑張ります。

Hさん

安全委員会 10 周年記念おめでとうございます。

今年はコロナウイルス感染症の流行に伴い、子ども達、そして私達職員にとってもストレスが溜まりやすい生活が今も続いています。毎日元気いっぱい過ごしている子ども達も、このような状況の中ではいつも以上に、コミュニケーションの中で相手を傷つけてしまうことがあったと思います。集団生活において、喧嘩やトラブルは避けられないものです。ですが、その喧嘩やトラブルを通して人とかかわり方を学び、心の成長に繋がってほしいと思います。私は 4 月から養護園で勤めさせていただき、まだまだ経験不足なことも多いのですが、子ども達の思いを受け止め、寄り添って関わっていききたいです。子ども達と共に学び、人として成長していききたいです。

職員 川本 遥

～安全委員会が 11 年目を迎えて～

12 月 9 日に安全委員会の 10 周年記念集会是無事終わりました。その日の夕食はこの 10 年を振り返りつつ、子ども達とステーキを食べ、大いに盛り上がったのはまだ記憶に新しい事です。

10 年前、当園の安全委員会顧問である田嶋先生のご指導の下、子どもたちが暴力をコントロールし、正しい解決の方法と一緒に学べる体制が構築されるまでにはさほど多くの時間を必要とはしなかったと記憶しています。しかしその後すぐにこの「安心安全な生活」をどのように持続していくのかという課題に直面し、私たち職員はこの 10 年試行錯誤してきたように思います。そして 11 年目を迎える今、私たちはこの安全委員会方式をどのように次の世代に伝えていくかという課題に直面しています。

この 10 年の間に施設が大舎からユニットケアに移行したことで職員の業務の取り組みの仕方が変更となり、また、経験年数の少ない職員も増えたことから、10 年前と同じ取り組みの仕方では、安全委員会を維持する事は今後難しくなる事が予測されます。その様な中でも安全委員会導入当時の想いはそのままに、また、次の 10 年に向けて大人も子どもも一緒に取り組みを行なっていきたいという想いを込めて、その第一歩として 11 年目は「みんなで作ろう安心安全な生活」のテーマの基、今年も新たにスタートを切る事が出来れば幸いです。

安全委員会課 主幹 松本 拓己

～たくさんの皆様に支えられて～

羊ヶ丘養護園の安全委員会が令和 2 年 12 月 1 日で、11 年目を向かうことができました。

今年は、コロナ禍で例年と違う記念集会でしたが、無事終えることができました。澤委員長はじめ外部委員の皆様には、子ども達と私達職員にあたたかいメッセージを頂きありがとうございました。

10 年の間、安全委員会方式を通して子ども達や職員は、多くの皆様に応援して頂き学びを深め成長させて頂きました。

当園に安全委員会を導入したときに高校生だった子も大人になり、今でも時々安全委員会の話になります。

それだけ、「暴力はいけない」ということを印象付けることができる取り組みだと実感しています。

これからも、子ども達が安心・安全な生活を送り、希望を持ち目標に向かうことができるように職員と子ども達全員で頑張っていきたいです。小学校、中学校の校長先生はじめ職員の皆様、児童相談所の職員の皆様にはお忙しい中、定例会の会議や嚴重注意などで子ども達の成長を見守っていただき、時には厳しく時には優しく声をかけていただき、本当にありがとうございます。これからも、当園の安全委員会を通して、子ども達の成長にお力添いを頂ければ光栄です。

今後ともよろしくお願ひします。

羊ヶ丘養護園 施設長 大畑 和子

～編集後記～

今回安全委員会設立 10 周年記念を無事に迎えることができました。そんな当園にとって節目の年でしたが、現在猛威を振るっている新型コロナウイルスの感染対策のため、今回の記念集会は外部委員の先生達の参加を見合わせて頂き、子ども達へのメッセージを職員が読み上げるというかなり簡略化した集会となりました。時代と共に記念集会のあり方も変わってくると思いますが、安全委員会の根本の部分は変化なく子ども達を支えながら、共に「安心で安全な生活」を作っていければと思います。

安全委員会課 小野・三上・川本